

## 令和5年度 自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議 「〇〇さんのこれから作戦会議」実施概要

No	包括	性別	年齢	要介護認定	世帯構成	目標	
1	みのわ	女性	93歳	要支援2	独居	3か月後	デイサービスに通えるようになりたい。
						6か月後	デイサービスに通えるようになりたい。
2	みのわ	女性	89歳	要支援1	独居	3か月後	趣味の短歌の会に出かける。
						6か月後	友人とのランチやカラオケを楽しむ。
3	くらまえ	男性	74歳	要支援2	同居 [妻]	3か月後	小旅行（日帰り、1泊2日程度）に1人で行きたい。
						6か月後	実家（九州）に帰省したい。
4	くらまえ	男性	78歳	要支援2	同居 [妻 長男 次男]	3か月後	この先も足腰が弱ることなく、歩行状態が継続できていればいい。
						6か月後	夫婦仲良く暮らしていきたい。
5	やなか	女性	92歳	要支援2	同居 [長男一家]	3か月後	シルバーカーから離れて外を歩けるようになりたい。
						6か月後	スーパーまで1人で買い物に行けるようになりたい。
6	やなか	女性	90歳	要支援2	同居 [姉]	3か月後	日々体力をつけて、転ばないようにしたい。
						6か月後	姉と一緒に埼玉県の姉の孫宅まで遊びに行きたい。
7	たいとう	女性	79歳	要支援2	同居 [長女]	3か月後	食事を安心しておいしく食べたい。
						6か月後	1人で散歩を楽しめるようになりたい。
8	たいとう	女性	83歳	要支援1	同居 [孫]	3か月後	・今の状態を維持していきたい。 ・もう少し遠出をしたい。
						6か月後	観劇やコンサートに行きたい。
9	ほうらい	女性	82歳	要支援1	独居	3か月後	膝の痛みが取れるといい。
						6か月後	千束の花屋まで歩いて行きたい
10	ほうらい	男性	61歳	要支援2	独居	3か月後	身だしなみを整えられるようになりたい。
						6か月後	・スポーツをやりたい。 ・仕事をしたい。
11	あさくさ	女性	86歳	要支援1	独居	3か月後	少しでも味が分かるようになりたい。
						6か月後	・物忘れを防ぎたい。 ・健康を維持したい。
12	あさくさ	女性	84歳	要支援1	同居 [次女一家]	3か月後	毎日、観音様のところまで散歩に行きたい。
						6か月後	友人・知人・家族と交流を持ち続けられる心身を保ちたい。
13	まつがや	男性	76歳	要支援2	独居	3か月後	両手を楽に上げられるようになりたい。
						6か月後	以前の様に気軽に外出したり、散歩ができるようになりたい。
14	まつがや	女性	90歳	要支援1	独居	3か月後	・犬の散歩やりハビりに通うことを続けていきたい。 ・そのために何に取り組んだらよいかを見つけない。
						6か月後	・腰痛がなくなったらいいと思う。 ・長い距離を歩けるように体力がつくといい。

サポーター連絡会



居宅介護支援事業所のケアマネジャーが事例提供したケース

前回資料からモニタリングを追加したもの

# 令和5年度 サポーター連絡会

## 1. 目的

令和5年度に7回（14件）実施した自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議について、司会者・助言者・事例提供者が集まり、実施状況などを振り返る。また、次年度に向けた改善点について意見をいただく。

## 2. 実施日

令和6年1月22日（月）

## 3. 参加者

司会者（主任介護支援専門員2名）

助言者（理学療法士3名、作業療法士3名、管理栄養士2名、歯科衛生士2名、  
生活支援コーディネーター1名）

地域包括支援センター職員12名

事例提供者（居宅介護支援事業所のケアマネジャー）5名

## 4. グループワーク（抜粋）

### 【専門職】

#### （1）令和5年度の振り返り

<よかった点>

- ・本人に提供できる自宅でできるストレッチなどの資料を準備して当日渡すことができた。
- ・実際に福祉用具（シルバーカー・杖）の調整をすることができた。
- ・会議中に本人のやりたいことを引き出した。本人の発言を聞き逃さずアドバイスができた。

<反省点>

- ・地域資源の紹介が十分にできなかった。地域特性を知ったうえで提案ができればよかった。
- ・本人の目標に対して、専門職としてのニーズが乏しく助言に苦慮した場面もあった。

#### （2）令和6年度に向けて

- ・会議目的の一つでもあるケアマネジャーの質の向上に対する評価を新たに加えたほうがいい。
- ・一部の司会者・助言者が固定化しているため、新しい人も参加できる仕組みの検討が必要。

### 【包括職員】

- ・対象者は、本人が会議中に発言できる、ケアマネジャーと連携が取りやすい、本人や家族が助言を求めているなどの視点から選定した。
- ・包括職員から居宅介護支援事業所のケアマネジャーへの説明が不足しており、ケアマネジャーが参加前にはメリットを感じない事例も複数あった。

### 【事例提供者】

- ・事前のアセスメントに時間がかかってしまうデメリットはあるが、通常のモニタリングでは聞き取れない本人の話を聞き出すことができるメリットもあった。
- ・本人が会議について十分に理解できていない状態で参加している事例があった。

## 5. 総括

令和5年度は助言者がそれぞれ資料を準備し、当日本人に渡している事例が多く見られた。司会者・助言者が会議の経験を踏まえて工夫をしてくださる一方で、メンバーが固定化してしまった現状もある。会議を継続して行くためにも、新たな司会者・助言者が参加できるような仕組みの検討が求められる。

居宅支援事業所のケアマネジャーは会議に参加するまで、会議の存在を認識しておらず周知不足が露呈した。ケアマネジャーと本人が事前に会議のイメージをつかめるような工夫とケアマネジャーへの周知が今後の課題である。